

令和6年2月28日

令和6年3月市議会定例会

市長施政方針並びに提案理由説明要旨

大 田 市

【はじめに】

令和6年第2回大田市議会定例会の開会にあたり、新年度の市政運営につきまして、私の所信を申し上げ、市民の皆様並びに市議会議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、大田市長への二期目の就任にあたり、「今後10年を見据えた市政運営を心掛けるとともに着実に実施していく」ことを目標に掲げました。以来2年4か月が経過いたしました。

この間、山陰道の全線開通に向けた活動、世界遺産・国立公園・日本遺産など大田の魅力を活用した観光振興、「大あなご」等の食による経済活性化、JR大田市駅周辺のまちづくりと大田市駅東側土地区画整理事業の着実な推進、行政のデジタル化や公共施設の適正化を含む行財政改革などに取り組むとともに、老朽化施設の改修を検討する中で、新庁舎の整備、子育てにかかる総合支援拠点施設整備、小・中学校の再編などにも着手することといたしました。

物価高騰や賃金の上昇が続く状況の中で、多額の資金と時間を必要とするこれらの事業に取り組むことは、引き続き厳しい財政運営を迫られることとなりますが、いずれの事業も、大田市の未来にとって必要不可欠な事業であります。

残る任期の1年8か月において、これまでに着手した様々な課題に一定の目途をつけるよう、全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様、市議会議員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

それでは、**新年度における主要な項目**について述べさせていただきます。

3月9日にはいよいよ、**山陰道「大田・静間道路」「静間・仁摩道路」**が開通いたします。本市では5年ぶりとなる山陰道の開通であり、「命の道」として、緊急時の移動時間の短縮、安全性の向上はもちろんのこと、観光や産業面における人の流れや物流の活発化など、様々な効果をもたらすものと期待をしています。残る「福光・浅利道路」についても、順調に事業が進捗しております。引き続き、一日も早い開

通と、山陰道の早期全線開通に向けて、関係機関に強く要望してまいります。

新年度には温泉津地区が**重要伝統的建造物群保存地区**に選定されてから20周年を迎えます。この節目の年を、貴重な文化資源の保存と活用について、地元の関係者とともに考える機会とし、これを契機に、3年後の令和9年に迎える「**世界遺産登録20周年**」、「**石見銀山発見500年**」に向け、実行委員会を立ち上げて、具体的な準備を進めてまいります。

観光の分野においては、当該年に向け、継続的な市内外へのプロモーションを行ってまいります。

遺産の保全・活用の分野においては、「魅力化」と「持続化」をテーマに、遺産の持つ魅力と価値を的確に伝えるための環境の整備や、国内外への情報発信を推進するとともに、次世代の人材育成をはじめとした持続可能な仕組みの構築を進めてまいります。

また、インターネット上の仮想空間であるメタバースを活用した**バーチャルミュージアム**による、石見銀山遺跡をはじめとした市内の文化や文化財の公開・活用に向けた検討を進めてまいります。

さらに、コロナ明けからインバウンド需要が高まる中、外国人旅行者の受け入れ体制の強化を図るため、通訳ガイドの経験を有する地域おこし協力隊員を配置し、外国語通訳ガイドの育成と組織化に向けて取り組んでまいります。

本市における**人口減少**は、国の減少率を上回る勢いで進行しており、とりわけ令和元年に201人であった出生数が、昨年は159人にまで減少するなど、深刻な状況にあります。

市政運営に大きな影響を及ぼす人口減少への対策を本市の最重要課題と捉え、今年度、「**総合的な人口減少対策事業**」に着手いたしました。様々な統計データの分析を行い、市民アンケートや子育て支援団体などにヒアリングを実施するとともに、各種関係機関や子育て世代の方々に構成する調査検討委員会において協議を重ねてまいりました。3月30日には、市民フォーラムを開催し、市全体で実態や課題の

共有を図ってまいります。

今後は調査分析の結果を踏まえて、できることから取り組むこととし、新たに「**出会う場の創出**」に向けた取り組みを進めるとともに、各地区において説明会や意見交換の場を設けることとしています。

新庁舎の整備につきましては、市議会議員や市民の皆さんからいただいた様々なご意見を踏まえ、3月中には、機能や概算工事費などを盛り込んだ基本計画を策定いたします。新年度からは、施設の構造やレイアウト、備えるべき機能などをまとめ、基本設計を行ってまいります。

隣接する「**子育てにかかる総合支援拠点施設**」につきましても、3月中に策定する基本計画に基づき、基本設計を行ってまいります。子育てに関する施設を複合化することにより、各機能を有機的に連携し、効率的な運営体制の構築や、相談体制の強化などを図ることで、きめ細やかな子育て支援や健康づくりの拠点となるよう、検討を進めてまいります。

小・中学校の再編につきましては、昨年9月末に3つの再編素案をお示しし、「大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会」をはじめ、11月に市民会館で開催した説明会や、地域・保護者の方々への説明会・意見交換会を通じて、広く話し合いを重ねてきました。3月には再編案をお示しすることとしておりましたが、より深い検討が必要であることから、新年度も引き続き検討委員会を継続し、再編案の作成を進めることといたしました。

こどもたちにとって、よりよい教育環境の確保につながるよう、将来の児童・生徒数の推移や校舎・施設の状況などを見据えながら、適正な小・中学校の配置に向けた再編・統合を進めてまいります。

令和8年4月までに統合することとしております**五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校**につきましては、統合後の校舎として利用する静間小学校の施設整備や、適切な通学手段の確保など、統合に必要な準備を進めてまいります。

また、校舎・施設の劣化が進む**大田小学校**につきましては、周辺の小学校との統

合を念頭に置きながら、現地建て替えに向けた準備を進めてまいります。

公共施設の補修・修繕対策につきましては、昨年3月に大森町で発生した転落死亡事故を受け、新たに立ち上げた「大田市公共施設改修及び修繕対策優先度判定委員会」において技術的・専門的知見による優先度判定を行い、施設の状態や利用状況に応じて、必要な予算措置と安全対策を実施してまいります。また、施設の大規模改修にあたっては、国県補助金や地方債などの有利な財源を活用し、財政負担の軽減・平準化に努めてまいります。

【主要施策の概要】

それでは、本会議において、ご審議いただきます諸議案の説明に先立ちまして、主要施策について、「第2次大田市総合計画・後期計画」に掲げる施策体系に沿って、申し上げます。

はじめに、第1の柱

『多様で活力ある産業づくり』についてであります。

産業振興につきましては、市政発展の重要課題と位置づけ、積極的に取り組んでまいります。

コロナ禍の影響により停滞していた**市内の経済活動**につきましては、物価高騰の影響など、事業者を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、山陰道の開通により、新たなビジネスチャンスが生まれることを期待しています。引き続き、商工団体などの関係機関と連携し、経営継続の支援体制を強化するとともに、空き店舗などを活用した起業・創業支援の拡充や、本市の豊かな地域資源を活用した商品開発、市外への販路開拓・拡大に対する補助など、積極的な事業展開を図る事業者への支援を行ってまいります。

観光につきましては、国内旅行客、訪日外国人旅行客とも回復傾向にあり、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつあります。文化や歴史、自然を感じる体験型旅行への観光需要の高まりを取り込み、「大田市新観光振興計画」に掲げる観光消費額の増加など、市内の経済循環にこだわった取り組みを進めてまいります。

三瓶地域では、西の原、北の原、東の原及び志学において、それぞれ特色ある資源を活用する民間事業者間の連携・連動を促進するとともに、三瓶温泉の安定供給に努め、地域全体を巻き込んだ観光地域づくりに取り組んでまいります。

石見銀山地域では、9月からJR西日本の**豪華寝台列車「TWILIGHT EXPRESS（トワイライトエクスプレス）瑞風」**の立ち寄り地となることが予定されており、大森の町並みを瑞風の乗客の皆さんに楽しんでいただけるよう、地域をあげて、受入れ態勢を整えてまいります。

温泉津地域では、近年、民間事業者が連携して取り組まれた温泉津温泉街の高付加価値化により、旅行客からの評価が高まっております。今後、さらに効果が発揮されるよう、地域と連携しながら誘客宣伝に努めてまいります。

日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」につきましては、昨年12月にシンポジウムを開催し、日本遺産の活用について様々なご意見を頂きました。引き続き、火山活動のストーリーにまつわる22の構成文化財を活かした地域の取り組みを支援し、地域活性化に努めてまいります。

「神々や鬼たちが躍動する神話の世界」につきましても、共同申請した石見9市町や島根県、島根県観光連盟などと連携し、石見地域における連帯感の醸成や観光誘客に取り組んでまいります。

農林水産業につきましては、「稼ぐ農林水産業」の推進による生産者の所得向上を図る取り組みを進めてまいります。

農業では、農地整備事業を契機とした農業経営の複合化を推進するとともに、スマート農業などの技術を活用し、生産者の負担軽減や省力化を図り、産地としての競争力の向上に努めてまいります。また、従来からの推進品目であるぶどうとキャベツのほか、産地化を進める白ネギ、アスパラガス、ミニトマトについて、生産基盤の強化に向けた取り組みを支援するとともに、大手ECサイトと連携した販路を通じ、大田市産農産物の認知度向上や生産者の所得向上を図ってまいります。

あわせて、有機農産物の生産拡大を図るため、有機米の販路拡大や生産性向上に係る取り組みを支援するとともに、有機野菜に関しては、楽天農業株式会社をはじめとする農業関連企業と連携し、栽培ノウハウの共有や新たな担い手の確保・育成に繋げてまいります。

畜産業では、国・県の支援制度を活用し、養鶏業の生産基盤の強化を推進するとともに、化学肥料に頼らない循環型農業を推進するため、地域内堆肥の活用など、耕畜連携を促進してまいります。あわせて、ブランド化に取り組んでおります「石見銀山和牛」については、新たな販路の確保と改良促進を図る中で、生産者の所得向上に結び付けてまいります。

また、飼料価格などの生産コストが高騰する中で、自給飼料の確保に対する取り組みを進めるとともに、島根県の実施する飼料価格高騰対策への上乗せ支援を行い、影響の緩和を図ってまいります。

林業・木材産業では、森林情報のデジタル化技術を導入し、新たに得られる詳細な情報をもとに、森林の集約化を進めてまいります。また、森林環境譲与税を活用した路網整備などにより、効率的かつ効果的に原木生産の拡大を推進するとともに、製材設備の導入支援、市産木材の利用促進により、循環型林業を推進し、二酸化炭素の吸収など、森林が有する多面的機能の維持・増進を図ってまいります。

水産業では、新規就業者の初期投資の軽減や、漁業への定着を図るため、給付金制度などによる支援を継続するとともに、新たな魚種の放流など、就業者の所得向

上につながる取り組みを支援し、沿岸の自営漁業者が安定した経営を実現できる環境を整えてまいります。また、和江漁港を中心とした市場機能の効率化や、漁船が水揚げしやすい漁港環境整備について、漁業者や関係機関と協議してまいります。

生産基盤の整備では、集落ごとに策定を進める地域計画に基づく担い手への農地集積や、高収益作物の導入に積極的に取り組む農地整備事業を優先的に実施するとともに、ため池や排水施設の改修、防災・減災対策による安定した生産基盤の確保を図ってまいります。また、地域共同による地域資源の保全や鳥獣被害対策など、集落機能の強化について、引き続き、支援してまいります。

企業誘致につきましては、テレワークなどの多様な働き方の普及により、企業の地方進出や、働き方に関する意識や行動の変容が見られることを踏まえ、地方で働く場の創出を目的として、民間事業者が実施する**サテライトオフィス**の整備を支援し、2月に竣工を迎えたところです。事業者と連携して、入居者や利用者の誘致活動を進めるとともに、サテライトオフィスを利用する進出企業と地元企業が連携して行う事業へ支援することで、進出企業の定着及び地域活性化を図ってまいります。また、こうした地方へ向けた企業や人の新たな流れが生まれていることを好機ととらえ、よりいっそう、IT系企業・人材の誘致に取り組んでまいります。

人材育成につきましては、若手後継者・経営者を対象とした「おおだ未来創造塾」において、第一線で活躍する経営者や専門家を講師としてお招きし、今後のビジネスモデルや新事業の創出方法などを学びながら、市内企業の異業種交流を図ることで、今後の本市の経済を牽引する人材の育成を推進してまいります。

人材確保につきましては、全国的に有効求人倍率が高水準で推移する中、少子高齢化や人口減少などの影響により、市内企業の人手不足は深刻化しております。昨年12月に締結した島根労働局との雇用対策協定に基づき、関係機関と連携し、若者のUIターン就職の促進など、人材確保に向けた取り組みを強化してまいります。

次に、第2の柱

『ふるさとを愛する豊かな心づくり』についてであります。

学校教育につきましては、こどもたちが確かな学力を身につけ、自分自身の夢を描き、その夢に向かって成長していける「未来志向の教育」に継続して取り組んでまいります。

学力育成では、3年目となる「学力育成プロジェクト事業」として、算数・数学・理科・英語を中心に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善や、本物にふれる体験学習、科学の本を読む習慣を身につけるための「理科読」といった取り組みを進めてまいります。

教育の魅力化では、これまでの小・中・高の連携による「ゆめ未来講演会」の開催に加え、島根県立大学と大田高校・邇摩高校・市教育委員会の4者でこのたび締結した連携協定により、世界遺産・日本遺産などをキーワードに、大学生、高校生並びに小中学生が各々取り組んできた石見銀山学習や遺跡保全などの活動を繋ぎ、交流を推進することで、互いの理解と学びを深めてまいります。

教育機会の確保では、特別支援教育などに対する支援員や介助員の配置はもとより、今年度から配置している「幼児教育アドバイザー」や、外国にルーツを持つ児童に対しての「日本語指導協力員」をそれぞれ継続配置し、小学校への就学や、慣れない環境下での学習や生活がより円滑にできるよう支援してまいります。

教職員の働き方改革では、4月から稼働する「統合型校務支援システム」により教職員の事務処理の負担軽減を図るとともに、市内各校においては、それぞれの実態に即した取り組みを、「学校運営協議会」を通じて地域や保護者の理解と協力を得ながら着実に進めてまいります。

社会教育につきましては、社会教育推進センターを廃止し、各まちづくりセンターが主体的に、着実に取り組むことができるよう、「地域学校協働本部事業」により「社会教育コーディネーター」を市内5つの中学校区に配置するとともに、連携協定を締結している国立三瓶青少年交流の家の人材や機能などとの連携体制を構築してまいります。

図書館につきましては、大田市中央図書館及び仁摩図書館内のWi-Fi環境を整備し、インターネットサービスを無料でご利用いただけるようになりました。こうした環境を活かしながら、中・高生の学習や市民の交流スペースとして一部を開放するなど、親しみやすい図書館への取り組みを積極的に進めてまいります。

芸術文化の振興につきましては、芸術文化を通じて、豊かな人間性が生まれ、個性豊かな地域づくりが進むよう、芸術文化活動に対する支援制度を新たに創設いたします。また、4月から運用を始めます市民会館の「生涯学習エリア」のスムーズな利用に向けて、利用される各種生涯学習団体へのサポートを行ってまいります。

スポーツの振興につきましては、競技人口の減少や部活動の地域移行、2030年に開催が予定されている「島根かみあり国スポ・全スポ」といった、本市のスポーツ環境の変化に対応していくため、大田市体育協会が取り組む組織体制の強化に対して積極的に支援してまいります。

また、連携協定を締結している日本体育大学の協力のもと、スポーツ指導者の育成や競技力の向上などに取り組むほか、これらの一環として、こどもたちがトップアスリートと触れる機会を創出してまいります。

島根かみあり国スポ・全スポにつきましては、新年度に弓道・空手道・銃剣道の中央競技団体による正規視察が予定されておりますので、県や各競技団体と十分に連携を図りながら、対応してまいります。

コロナ禍の影響によりオンライン開催としておりました**三瓶西の原クロスカントリー大会**につきましては、4年ぶりの現地開催に向けた準備を進めてまいります。

山村留学につきましては、拠点施設である山村留学センターが開所20周年を迎えることから、運営や活動にご支援いただいた関係者の皆さんとともに、この節目の年をお祝いし、これまでの足跡を振り返る記念事業を実施いたします。

一方で、農家でのこどもの受け入れが困難になりつつあることや、センターが築20年を経過し、劣化が進んでいることに加え、事業実施にかかる財源の確保が厳しくなることから、学校のあり方とあわせて、山村留学のあり方についても検討してまいります。

次に、第3の柱

『だれもが住みよい暮らしづくり』についてであります。

妊娠・出産・子育て支援につきましては、新年度から、母子保健機能と児童福祉機能を一体とし、各種の相談などに対応する「**こども家庭センター**」を、子ども家庭支援課内に設置いたします。ふたつの機能の連携と協働を深め、妊娠から子育てまで切れ目なく支援することで、すべての妊産婦と子育て世帯が、より安心して出産・子育てができる環境を整えてまいります。

また、令和4年10月から、**不妊・不育症治療費助成**を拡充し、従来の一般不妊治療に加え、体外受精などの生殖補助医療や不育症についての助成を行っており、今年度からは、不妊治療の助成額を年間15万円から30万円に増額したところです。この制度を活用された方の約6割が、妊娠・出産に至っていることから、助成事業を継続し、こどもを産み育てたいと願う方々の気持ちに寄り添う支援を行ってまいります。

子育ての環境づくりにつきましては、昨今の物価高騰により食材費の高騰が続く

中、保護者が保育所などに支払う副食費を値上げせずに据え置いているため、物価高騰分を保育事業者が負担している状況にあります。そのため、引き続き、保育事業者の負担の一部を補助することで、保護者の負担を増やすことなく、給食の質の維持を図り、こどもの健全な育成に努めてまいります。

健康づくりにつきましては、新年度に策定する「第2期おおだ健やかプラン」に基づき、市民の皆さんが生涯にわたり健康に生活できるよう、地域の関係団体と連携し、ライフステージに応じた生活習慣病予防や介護予防、心の健康づくりの取り組みを推進してまいります。

地域医療の確保につきましては、大田市立病院の全面的な協力のもと、安定的に医療が提供できている池田診療所において、近年、患者数の減少が見られることから、今後も医療提供体制を維持していくために、ICTを活用したオンライン診療の導入を検討してまいります。

地域福祉につきましては、新年度に策定する「第4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき、地域の多様な人や資源が世代や分野を超えてつながり、全ての人が役割と生きがいをもって暮らせる地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現を目指し、複合化する生活課題に対して、保健・医療・福祉などの支援関係機関が連携して、解決に向けた支援を行ってまいります。

高齢者福祉につきましては、新年度から始まる「大田市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」に基づき、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活し続けることができるよう、介護サービスの提供や介護予防、高齢者虐待の防止、認知症の方や家族への支援など、各種事業に取り組んでまいります。

また、高齢者を支える総合相談窓口である**地域包括支援センター業務**につきましては、新年度から、福祉に関する専門的な知識や、相談対応に関する技術を有し、資格取得や人材育成に力を入れている大田市社会福祉協議会に委託することといた

しました。この委託により、支援に必要な専門職を安定的に確保することで、センター機能の充実と市民サービスの向上を図ってまいります。

障がい者福祉につきましては、新年度から始まる「第3次大田市障がい者計画・第7期大田市障がい福祉計画・第3期大田市障がい児福祉計画」に基づき、「障がいのあるなしに関わらず、だれもが安心して、自分らしく暮らせるまちづくり」を目指し、障がいのある人が安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域で生活を支える「地域生活支援拠点」などの整備に向けた取り組みを進めてまいります。

人権施策の推進につきましては、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、「一人ひとりの人権が尊重される、心豊かな共生社会」の実現に向け、関係する機関や団体などと連携を図り、あらゆる場と機会において人権課題について考え、解決を図る環境づくりを推進してまいります。

また、「おおだふれあい会館」につきましては、令和8年度に供用開始を予定しております、仮称「大田市人権センター」への建て替えに向けて、実施設計を進めてまいります。

男女共同参画の推進につきましては、互いにその人権を尊重し、ともに責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指して、島根県立男女共同参画センターあすてらすなどとの連携により、講演会や研修会の取り組みを進めてまいります。

また、令和4年度に策定した「第3次男女共同参画計画」に基づき、各種審議会などにおける女性の参画率40%の達成、男女共同参画の視点からの防災・災害支援など、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

消費者の安全、安心の確保につきましては、SNSを介した様々な消費者トラブルから市民の安全・安心な暮らしを守るため、相談体制の充実や、啓発活動の推進

を図り、消費者被害の救済、未然防止及び拡大防止に努めてまいります。

多文化共生社会の実現につきましては、「大田市多文化共生推進計画」に基づき、年々増加する外国人住民が、地域で安心して快適に暮らすことのできる環境づくりに努めてまいります。また、引き続き国際交流員を配置し、地域における多文化理解の促進や、日本語教室の指導者育成などの取り組みを進めてまいります。

次に、第4の柱

『くらしや交流を支える都市基盤づくり』についてであります。

中心市街地の整備につきましては、令和4年度から「大田市駅前周辺東側土地区画整理事業」に着手し、今年度からは建物移転に取りかかっているところです。新年度には工事と建物移転がピークを迎えることから、各関係者と調整を図りつつ、引き続き、着実に事業を進めてまいります。

大田市駅通りにつきましては、引き続き、歩車共存道路として整備していくための詳細設計業務を進めてまいります。

公園整備につきましては、「公園施設長寿命化計画」に基づき、石見銀山公園清水寺（せいすいじ）前休憩所の改修などを実施してまいります。

公共下水道などの汚水処理施設の整備につきましては、生活環境の改善や公共用水域の水質保全のため、引き続き、大田処理区内の大田地区及び久手地区において、整備を進めてまいります。

公共交通につきましては、運転手の確保や処遇の改善、燃料費の高騰、利用者の減少など、様々な課題を抱えており、県内の一部バス路線が廃止・縮小されるなど、

取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。本市といたしましては、6月を目途に「大田市地域公共交通計画」を策定し、市民生活に大きく影響する「公共交通」の維持に向け、国、県や沿線市町はもとより、運行事業者や地域とも連携し、積極的な取り組みを進めてまいります。

道路整備につきましては、落石・冠水対策などの防災安全対策工事や、通学路の交通安全施設の改修などを重点的に実施してまいります。

また、令和4年度に策定した「橋梁等長寿命化修繕計画」に基づき、橋梁の改修・更新などを着実に進め、安全で快適な生活道路の確保に努めてまいります。

消防・救急につきましては、火災をはじめとする各種災害や、高齢化などにより増大する救急需要に、迅速かつ的確に対応するため、消防車両や資機材、消防水利の整備に取り組み、消防・救急体制の充実強化に努めてまいります。

交通安全対策の推進につきましては、夏までに運転免許高齢者講習施設の建設工事を終え、10月には講習を開始する予定です。

防災対策につきましては、能登半島地震を踏まえて、備蓄品の充実を図るとともに、複合災害に柔軟に対応するため、関係機関との連携を強化してまいります。あわせて、自主防災組織の拡充や防災・減災意識の啓発などに取り組み、更なる地域防災力の向上に努めてまいります。

治水対策につきましては、豪雨などによる河川氾濫の抑止や河川環境維持のため、堆積土砂などの撤去や支障となる樹木の伐採、除草を行ってまいります。

次に、第5の柱

『人と自然が共生した、自然・生活環境づくり』についてであります。

ごみの処理や資源物のリサイクルにつきましては、共同処理を行っております邑智クリーンセンターの「可燃ごみ共同処理施設」のほか、市内5施設において安定的な処理を行っております。引き続き、適正なごみ処理及び安定的な運営に務めるため、設備更新を計画的に実施するとともに、ごみの減量化及び資源物の分別化に向けた取り組みを推進してまいります。

また、**一般廃棄物処理手数料**につきましては、今年度、公共料金審議会を3回開催し、先般、答申を頂いたところであります。今後はその答申を踏まえて、手数料の見直しに向けた検討を進めてまいります。

地球温暖化対策につきましては、国において、温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにする、いわゆる「カーボンニュートラル」の実現を目指し、各種取り組みを推進しているところです。

本市といたしましても、地球温暖化は重要な課題と認識していることから、ここに「**ゼロカーボンシティ**」の実現を目指すことを宣言し、2050年における二酸化炭素の実質排出量ゼロの状態を目指してまいります。具体的には、今年度に策定した「大田市環境総合計画」に基づき、公共施設のLED化などの省エネ対策や、再生可能エネルギーの導入促進に向けた取り組みを推進してまいります。

水道事業につきましては、水道ビジョンの基本方針である「強靱・持続・安全」に基づき、効率的な経営を目指すとともに、老朽管路の更新などによる耐震化の推進や、必要な機器更新を計画的に実施し、引き続き、安全・安心な水道水の安定的な供給に努めてまいります。

なお、水道事業における経営環境は、給水収益の減少や物価高騰などの影響により、近年、厳しさを増している状況にありますので、経営の改善に向けて、様々な面から検討してまいります。

次に、第6の柱

『協働・共創による持続可能なまちづくり』についてであります。

小さな拠点づくりにつきましては、市内27地区の各まちづくりセンターを活動拠点として、市民主体の地域運営組織などを中心に、地域課題解決に取り組んでいただいております。

中でも、久利・大屋地区まちづくり推進協議会においては、人口減少が進み、単独の地域では維持することが困難な生活機能などについて、ふたつの地区の住民相互による助け合いの体制・仕組みづくりに取り組んでこられました。今後も、だれもが安心して住み続けることができるまちを目指すモデルケースとして、取り組みの継続を期待しています。

定住促進につきましては、対面式のU・Iターンフェアに参加し、本市の魅力を直接PRするとともに、移住希望の方へ本市の熱意を伝えて、定住に繋げてまいります。また、地方への移住を検討されている方などが、本市での暮らしをイメージできるよう、引き続き、YouTube動画などを活用した情報発信を行ってまいります。

ふるさと納税につきましては、今年度、インターネットの検索サイトにおいて大田の返礼品を上位に表示させるなど、より多くの皆さんに見ていただけるような対策を行い、寄附額が増加するなどの効果が表れつつあります。引き続き、寄附者のニーズに応じた返礼品の見せ方や、返礼品の改善提案などの事業者支援を行い、魅力ある返礼品となるよう、事業者と一体となって取り組んでまいります。

企業版ふるさと納税につきましては、多くの企業から応援していただけるよう、世界遺産や日本遺産、国立公園をはじめとした、本市が誇れる自然・歴史・伝統文化などを活用した魅力ある事業を展開してまいります。

自治体DXの推進につきましては、今年度、若手職員を中心としたプロジェクトチームを結成し、「書かない窓口」の導入など、DXの推進に関する調査・検討を行っております。引き続き、行政サービスの質・利便性の向上、業務の効率化などに向け、DXを推進してまいります。

市内の葬斎場につきましては、現在、大田、温泉津、仁摩の3つの葬斎場を使用しておりますが、**公共施設適正化**の観点から検討を進め、市内で1つの葬斎場運営が適切であると判断いたしました。

施設につきましては、現大田葬斎場を改修して使用する方針とし、新年度からは、施設の長寿命化に向けた取り組みを進めてまいります。また、温泉津及び仁摩葬斎場につきましては、大田葬斎場の長寿命化工事が完了した後、段階的に閉場する計画としています。

最後に、平成17年10月1日に旧大田市、邇摩郡温泉津町及び仁摩町が合併して誕生した本市は、令和7年に**合併20周年**を迎えます。このため、新年度において準備委員会を組織し、周年事業について検討してまいります。

以上、主要施策の概要を申し上げます。

【予算案等提案理由】

続きまして、今回提案をいたしております**新年度予算案**について申し上げます。

一般会計のほか、6件の特別会計、3件の公営企業会計の予算案を上程しており、いずれも、主要施策として申し上げます取り組みを進めるため、本市の厳しい財政状況を考慮して、予算を編成したところであります。

編成にあたりましては、事務事業の見直しや公共施設の適正化をより一層推進するなど、財政健全化の取り組みを継続するとともに、後年度の財政負担を考慮して、

学校施設建て替えなどの大型ハード事業を着実に進めるため、他の投資的経費を極力抑制するよう努めたところであります。

歳入につきましては、国が新たな経済対策として打ち出した定額減税の実施などにより市税が減収となる一方、人事院勧告による人件費の増加などを踏まえ、地方交付税の算定基準額が引き上げとなることなどに伴い、一般財源の総額を対前年度3億3千9百万円余の増収と見込んでおります。

歳出につきましては、本市の抱える諸課題を先送りすることなく予算化するとともに、施策の優先順位を再検討し、事業の選択と集中をより一層徹底することで、可能な限り収支不足の圧縮に努めたところであります。

また、市政運営の指針となる「第2次大田市総合計画・後期計画」に掲げる将来像「子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち“おおだ”」の実現に向けた施策につきましては、重点的に予算配分しております。

この結果、一般会計当初予算の総額は、対前年度16億2千万円、7.2%増の、241億5千万円としたところであり、本予算を「**人口減少時代を乗り越え、おおだの誇りを未来へ繋げるための予算**」と位置づけ、先に申しあげました主要施策を迅速かつ確実に実行してまいります。

特徴的な事業といたしましては、婚活支援を行うための「出会いの場創出事業」、歴史・文化を未来に繋げるための「世界遺産登録20周年・石見銀山発見500年記念事業」、観光産業の活性化を図るための「“TWILIGHT EXPRESS 瑞風”受入環境整備事業」、市内3葬斎場の集約化を図るための「大田葬斎場長寿命化改修事業」、現校舎の建て替えを進めるための「大田小学校整備事業」などです。

このほか、安全確保に向けた公共施設の改修・修繕対策を計画的に進めるとともに、教育の魅力化や地域の脱炭素化、協働・共創のまちづくりや大田市立病院をはじめとする地域医療体制の確保につきましても、継続して取り組んでまいります。

なお、昨年の決算審査特別委員会の指摘事項などにつきましては、その対応調書をタブレットに掲載いたしております。

次に、**令和5年度の補正予算案**につきましては、一般会計のほか、7件の特別会計、3件の公営企業会計の補正予算をそれぞれ上程いたしております。

一般会計補正予算につきましては、「令和6年能登半島地震」に係る職員派遣経費や各種基金への新規積立金などを計上する一方、各種事業の実績減を併せて計上しており、総額2億9百万円余を減額するものであります。

補正後の一般会計の予算総額は、253億6千5百万円余となります。

以上の予算案のほか、条例案件、一般案件の諸議案につきまして、本会議へ提案いたしております。詳細につきましては、それぞれ担当部課長に説明させますので、十分にご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。

市民の皆様、市議会議員各位のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げ、私の施政方針並びに提案理由の説明といたします。